

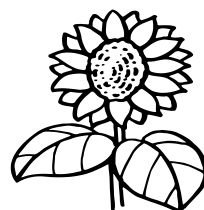
日根小だより



令和6年9月3日（火）
文責：校長 飯田 恵子
平和学習特別号②

戦後79年目の夏

私たちが築く平和とは！



平和集会での校長講話の「中略」の部分の話です。

今から80年前のこと、日本が戦争に負けた年の前の年のことです。昭和19年。

日本の本土への空襲が本格化したこの年、当時20歳を過ぎたばかりのひとりの青年のもとに召集令状という赤い紙が届きました。その青年は徴兵検査を受け、甲種合格となり満州に出征していったそうです。昭和19年の兵隊さんとは、どういう意味があるのか。そのころ日本がどういう状況にあるのか。ほとんどの人は薄々気づいていたと思います。でも、誰も何も言えない時代でした。青年は、体格のいい陸軍一等兵だったそうですが、戦争により傷を負い、日本に帰ってきても、故郷から遠く離れた病院で、療養生活をしていました。青年は自分の親にも、戦死したとされていたそうです。戦争によって傷を負った人を「傷痍軍人」といいます。青年は、傷痍軍人となりました。日本に帰ってきても、家に戻るまでに1年ほどかかったそうです。

その後、青年は自分の体をかばいながらも、自分の妻や子どもたちを養うために、働き続けました。子どもたちの寝顔を見ることなく、一日中働きました。青年がいつ布団に入っていたのかを子どもたちは知りません。後で聞いたことですが、青年の眠りは浅く、よく、うなされたり、布団から飛び起きて冷や汗をかいたりしていたそうです。きっと、戦場での出来事を夢に見ていたのだと思います。戦争の傷跡を引きずったまま、ひっそりと生きていました。景気が良くなり、（高度経済成長で）世間は華やかさを取り戻していましたが、そんな中でも、こつこつとひたすら働いていました。青年が時折、口ずさんでいたのは、当時の流行歌ではなく、「同期の桜」や「戦友」という軍歌でした。戦争を体験した人にしかわからない、心の傷の深さを知ることなく、青年の子どもたちは大人になりました。

これは、実話です。あまりにも身近に戦争を体験した人（親）がいたことで、家族の中では、戦争の話はタブーであったように思います。もっと真剣に話をしていたら…。今となっては聞くことが叶いません。子どもたちには、難しい話になってしまいましたが、保護者の皆様で、もし、戦争の話を聞くことが可能なら、お子さんのため、後世の人のためにも、聞いていただければ幸いです。

子どもたちの平和学習のふりかえり(続き)です。

4年生…平和集会や「火の海」を見て、感じたことや考えたこと

- 楽しいことや平和だと自分が思っていたところに戦争などが起きると、気持ちのコントロールができないので、すごく怖かったのだと思う。さだ子さんのような「元気になりたい」と思っている人がとてもたくさんいたのじゃないかと思う。へいたいの人やふつうの人もたくさんのが人が出て、とても悲しい。戦争というと広島や長崎を思い浮かべるけど、じつは、大阪もひがいをうけていたなんて知らなかった。さいごに出てきた「平和、それは人類のねがいです」ということばはすごいと思った。
- わたしは「火の海」を見て、戦争が怖くなりました。たくさんの人がなくなったり、けがをしたりするから、戦争が怖くなりました。たくさんの人が悲しい思いをしたりするのは、よくないと思います。なので、戦争は、してはいけない。ばくだんやだれかをきずつけることをすることは、よくない。そう思いました。この世界のみんなが平和に楽しくらしてほしいです。
- わたしは、平和は、争いごとがなく、みんなが幸せに楽しくすごすことができる環境のことだと思いました。幸せというのは、ご飯などが選べて、しっかり食べることができ、安心して生活できることだと思いました。戦争は国と国のけんかです。今は日本が戦争をしていないから身近に感じられないけれど、姉妹げんかならいつでもしているので、それをなくすということから初めていきたいと思いました。今は、ご飯もしっかり食べることができて、学校にも行くことができて、とても幸せだと思いました。
- 楽しくすごせることが幸せです。「火の海」を見て思ったことは、自分の立場においてみると、すごく悲しいし、泣きそうになります。わたしは戦争の時代を生きていたわけじゃないけど、おじいちゃんたちから聞いて、すごく怖かったです。今は戦争がなくなってよかったです。でも、よその国がミサイルを発射しているというニュースを見て、ほんとうに悲しいし、怖いです。そのうち、飛んでくるのかもって思うとなみだが出てきてしまいます。防空ごうがないので、にげる時どうすればよいのか分かりません。戦争がない時代に生まれてよかったって思います。
- 戦争は怖いことだと知っていたけど、改めて、怖いなと思いました。けがをしても生きているってすごいなと感じました。たくさんの方の命はなくなってしまったけど、下を向くのではなく、その人の分まで生きようと前向きに生きるって、大切だと思いました。ほんとうに戦争がなくなってよかったと思います。まだ、戦争をやっているところもあるけど、早く終わって、みんなが生きられるようになってほしいなと思います。でも、戦争が終わったからって、戦争のことを学ばなかったら、また、戦争が起こるから、起きないようにしっかりと戦争のことを学び、なくなってしまった人のことを思い出して戦争は起きないようにしようと思いました。
- 平和集会で、黙とうをして、広島や長崎では、原子ばくだんを落とされて、なくなった方やそのあとになくなってしまった人たちがたくさんいました。「火の海」では、たくさんの方の死体、川にういている人たちがたくさんいました。さち子さんは爆弾で片腕をなくし、あき子さんはお母さんに背負われたまま亡くなっていました。「戦争なんてするものではない。」と、改めて、思いました。大阪でも大きな空しゅうが8回もあったことを知って驚きました。動画を見ていると、いろいろなところに火がついて、逃げ場がなくて、とても怖かったです。

5年生…平和とは

- 家族と笑い合える、毎日幸せ、住む所や食べ物に困らない。
- 簡単に人が死なない。殺されない。
- 友だちや家族がいる。仲良し。みんな苦しい思いをせず、笑顔で元気であること。
- 戦争や紛争などの争いが無い、いじめや差別が無い。
- 争いのない世界、いじめや悪口を言わない世界、障がいのある人や性別を差別しない世界。

5年生…「つるにのって」を見た感想

- 原子爆弾の恐ろしさはすさまじいと思いました。私は、放射線の黒い雨が恐ろしいと思いました。登場したさだ子さんは放射線のせいで死んでしまったと考えたら、ひどいと思いました。
- 原爆って爆弾のちょっと強い物かと思っていたから、あんなにやばい物って知ってよかった。あんなに一瞬で人が死ぬって、めっちゃ恐ろしいし、想像しただけで悲しい。原爆は、起こった時に乗り切っても、後から苦しんでいくのがかわいそう。最後のシーンみたいにつるにのって、前の戦争を幸せにするのが本当だったらいいのにな。
- 小さい子でもおばあちゃんでも関係なく殺されて、その時、みんな怖かったんだろうなと思うと、やっぱり、戦争はだめだなと思いました。同じ人間なんだから、殺し合いなんてしなかったらいいのにな。
- なにげない日常を送っていた人が亡くなってしまっていて、今ではあまりありえないことだけど、その生活を送っている人がいたということを改めて知ることができました。私たちは、この平和を守っていけたらなと思いました。
- 昔、日本で戦争があったこと、そして、原子爆弾が落とされたという事実を忘れないように伝えていくことが大事だと、改めて思った。
- さだ子さんは、放射能を浴びてがんになってしまったんだなと思いました。千羽鶴と折り鶴が関係しているなと思いました。戦争は、どんだけ人を苦しめることか、とってもだめなことだと分かりました。
- 実際に、原子爆弾の爆発で亡くなった人もいたんだけど、放射線で亡くなった人も多くいて、怖い物なんだなと思った。
- とも子さんのように、私も戦争のことを全然知っていませんでした。私はこれから戦争が起きてほしくないから、みんなに「戦争はいけない」と広めたいと思いました。

5年生…平和学習のふりかえり

- 今までの平和学習でも、原子爆弾のことは知っていました。でも、放射線の含まれた黒い雨のことは、まったく知りませんでした。でも、今回の勉強で恐ろしさを知り、驚きました。もうこんなことには、なってはいけないなと思います。
- 戦争は、起こった時も終わった後もずっと人を苦しめるし、人の心の中にずっと残る。だから、戦争のことを知って、いろんな人に伝えて、「戦争は絶対しない。」って言おう。

- 戦争では、関係のない子どもや赤ちゃんなどが巻き込まれると知りました。戦争してもなんも幸せにならんのかから、戦争はもうしてほしくないなと思いました。
- 確かに完璧な平和はないけど、できるだけ平和をつくっていききたいなと思いました。そのために戦争についてもっと知って、伝えていききたいと思いました。
- 何十年も昔のことだから、実際に見た人は少なくなっているけれど、未来へ伝えていって、その事実を忘れないようにしなければいけないと思った。
- ほんとうに「しんちゃんのさんりんしゃ」や「つるにのって」があつたんだと分かりました。戦争はしたらだめだよということや戦争で辛い思いをした人たちの願いを、この学校で折った鶴がかなえてあげてほしいなと思いました。
- 僕の親は長崎で住んでいた。お母さんから戦争の話を聞いたことがある。戦争でひいじいちゃんも亡くなったことを知った。このことを忘れないように、そして、みんなに戦争の怖さを伝えていきたい。
- もう二度と世界で戦争が起きてほしくないの、大人になったらみんなが平和にくらせるように、募金などを積極的にしたいと思います。

6年生…平和学習のふりかえり

- 自分たちが、今、生きているのは、小さな奇跡だと思います。もし自分たちがあの時代に生まれて、広島に住んでいたなら「自分たちが、原爆によって、死んでいたかもしれない」と思うと、とても怖いことです。
- このようにあやまちを繰り返さないために、自分たちで、平和をつくる。
過去は消せなくても、未来は、自分たちの行動でかわる。
今、戦争をとめることができなくても、つらさやひどさを伝えていくことはできます。
- 平和は当たり前ではないということが分かった。これから、次の世代に伝えていけるように、まず自分がしっかり平和学習に向かわなければならないと思う。
- これまでの平和学習で、広島に原子爆弾を落とされ、被害を受けた人たちは、どれだけつらい思いをしたか分かった。でも、わかりきっていないところを、6年の修学旅行で学習しようと思った。
- 原爆や戦争などのことを日常や生活に結び付けて考えたいと思った。日本の歴史のことだから、しっかり知りたかった。世界のことに目も向けたい。
- 戦争は、死んでしまった人たちも、生き残った人たちも、みんながつらい思いをし、体や心に大きなきずを負わされているのだとわかりました。
- 戦争のDVDや絵本などの資料を読んで、戦争や原爆について、初めて知ることもあった。戦争に関して、関心が薄れていたが、今日や、その前の日の学習をとおして、ちゃんと思ひ出すことができた。
- 「平和への誓い」を聞いて、一番心に残ったのが、「生き残ってくれてありがとう。命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています」という部分です。もっと命のつながりを大切にしていきたいなと思った。(子どもたちは、時間の都合上、今年の「平和の誓い」を聞いています。)